山桝太夫

岩城賣記

五六

へ13
3304
3

門へ13
號 3304
卷 3

池清

岩体実紀奏し五

目録

一 廣瀬大弐義利の事

一 玉の事

一 和田義盛金屋の付申さる事

大正十年八月廿九日寄贈
本大學出版部

東京 貸本所 油屋清吉

池清

実俊宣旨を奉じて五

摩風大三郎村重を屠る事

の事

[系図]和田義盛命厚の討て来たる

のそむき事

扨も三浦義村を源二位の

命をうけて日本国に命厚

ゝ下向ゝ摩風を討ると

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

の極[illegible]すい[illegible]の[illegible]者

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

り廣風夢うけ四辺うな
らの傳てそれうし
を風ちりとかゝるぜ
やそれ[illegible]ぐうしけち
くも[illegible]陸奥のお筆
あり白を彩朝の長下あり
ん汚ふうき事あり又
あんど白をう後ん

まりやうさらぶ
りまま なふがらべ又
りをきあふるうる
べ我彩朝うさぶよ
ふあけはがるあうを
まなとと傳ん人の
りをなりさふの天
村まれをうぶく

ことをおもひまうけてはかりごとをめぐらみ
作りていにしへの聖人を始める
るゆゑんとまれがうれぬりの天の威光を
をあとをしたがひ書籍
のばと我身を卑しくして
りかの日本のことをふ
りばとなるあらそふ事

陽成院の御子
[illegible]の孫[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

御代をうけたまはるべきなれば
たまはる甲冑をもつて
[illegible]
[illegible]の苦悩を思ひ
胡国を亡ぼし
攻をのこしたまふ[illegible]
先祖を悔[illegible]
[illegible]攻[illegible]
西国[illegible]

思案をして出船の[illegible]
[illegible]
[illegible]
城胡国をうつべし
威勢あるべし
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

れば彦風これをうけたる
りうふうとつとふ仏事
のはなをあせらは例の手
のうふうふ陣の家のまだて
まいのるべうば今更威はも
ねうせんをもやうる
よりりば入用なが軍勢
をさしむうとりうば

四辺さかりうば寄合十万
騎騎ばきをもやうる
のあをれるあうんこの度ば
辺をはしるるれを
まりうさ朝ををうる
さんとの陸き付るあり
陸奥の形勢
あるる事陸ようけて

つくるごとくしさいらりの件器
ずおちめる靡風よりて
形能ゞ手段白人ゝ手まぎ
ゝん眷屋ゝ紀朝新聞
殘子ゝ手ゝ新聞を害
ゝ天下をたさめ一ゝを
形朝の功ゝ新聞件
新聞の勢朝の功有て

りやまりあきらかのを教
書しゝそのの形勢をうちゞ
その形勢のあゝ岩間をさゝ
ちろゞゝのを他人のこれ
ゞゝゝかるのいうよ形勢をあ
ておこまゞゝいるゝれあゝ
まゝゝゝ彼風をとりろさん
ゝめいりりの世数を白ろい

せんとれば　そのけぶれさ
れる踊を見べし義の為
り云を奉し　云を弾結
して　寛吉の　義を立て天下を
知さんとれば　結
城をうばれ　べうべ
知一踊有　しい踊
踊を加る　伊賀をあらり

きりべし　まで　もあり
六年　をれん　しうる
くぶ　やぐ　形
胡土産　陸奥
伊賀　踊
りべ　と云
一　愛七大云　ときそ
傳云　のり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

出せ一事ある史攻法
ありさ家傳道具ぶ錯さ
いとり出るものの中に
ものかとりねとぞ迎狩
器をあらし胡者をとり
うたるいとくさ迎の出
れよるあ家傳をふ
ひとれまとしくく

それぞ一つも別腹す
ったのみませてまま
出ふ一泡も強奪られ
ぶ打入りとき迎をたの中
まるありとちとしとあの
ぐれで迎横手をう
ちの迎のんち中我ん的
中せりうは屋ふ

ゆくすえ祝ものの事ふるき
胡蝶をあしみあちらこち
ちらとうつるゆをそれぞ
よくつかせ給ひ百年や
生延てちとのびのものを洗
ふる鍋つらーをき餐用
のものの遊をうらいしも
又陸ふる事へのうち百理

度ちと中にものいそれぐし
ぶ事人笠ふる十事とり仮父
鍋あれバらわれ手をまり
ちし歌地ちさびれをきとり
そのそよおあそこのーも
池鉢あしぜひしし胡
光をうたひらーやべ
ぜ器そまのそを義

あるべうもなくと盲人教知国
孫しうと義経ぶんを
出ぶんじゃうたのみ事を
とりとまをつけうりあるさ
しうとやうこうり子連市前
と出て長兵ぶみりし次郎兵
衛より義経をれが子の侍従
小はきれうて静又今年

りあり。彩絵いろ〳〵きこ
めし上をいらうり又をあぶき
のひいうぶせんと四方を見
まわしのぶる子をつもりあ人
ちうこ長ぶ侍士の形者和
田義盛まをを出うしやりるハ
長兵ぶが返答をあんぶるあ
よりる奇怪のやうぶ云系

うふ[illegible]ぶ[illegible]に[illegible]
[illegible]のあふが[illegible]
あるにしてこれ[illegible]
ゆ[illegible]ぶ[illegible]さ
いづきこれを[illegible]
をうで[illegible]の[illegible]
あこりてこれの[illegible]
くものしるあ[illegible]

にしとくうれ[illegible]
軍船をあり[illegible]
うこれの[illegible]
りさこ[illegible]
うこ[illegible]と[illegible]
[illegible]れこれ[illegible]
[illegible]ぬあ[illegible]
あうぶ[illegible]

ぐ〻ぐんをさーむけ
あが胡老きうしちゃべし
ゆれこれをゆるうられる
あり再びそ陸をそのく
あがられつるよハ伺せざる
書しるべしばとその指系
次印をもりいろいわぐ
をあさーをんのくぐ胡老を

うるる書いさてをきあ所に
ををきちゆ系をさぐる
むる書しをるるたりしらが
世彩もせんうちあく伺系
ぬ唐風い彩創の印をよて
ゆあき清風ををしむよ
高しまりて鏡を拾て
この胡老をうひとろしみ

あしたに時のうつるまでふ
りぶ歩奏なりこのうくの人
僧をなるべくといふくし
遅ぐまでなるべし遠望をもあび
けいきちひさふらぶ天
ありり陣さまあ下をまをんと
たくるまで高歌あれうさ
あるまで舞相あるものの
ぞまるまるさるよをせはる
まり高風ぐまるまる事
あびたぐくし軍会玉中み
元陽しまでる時天のおも
ひをあしくりまある

岩体寺紀蓮二年

芳流閣紀念

目録

一 和田義盛再び君侯の
事
兵千代能登守奥州より
下向の事

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

りりう母ふ〳〵源をはは
ゝ和田義盛頼朝もと
いさををていてりりいえもある
めて侍をんをわしゝゝ
天下の武をうゝてりて母いざ
るやゝうゝさ威光の程を
ゝ作りあよて戦場す
あるもしゝうぼゝてみゝび

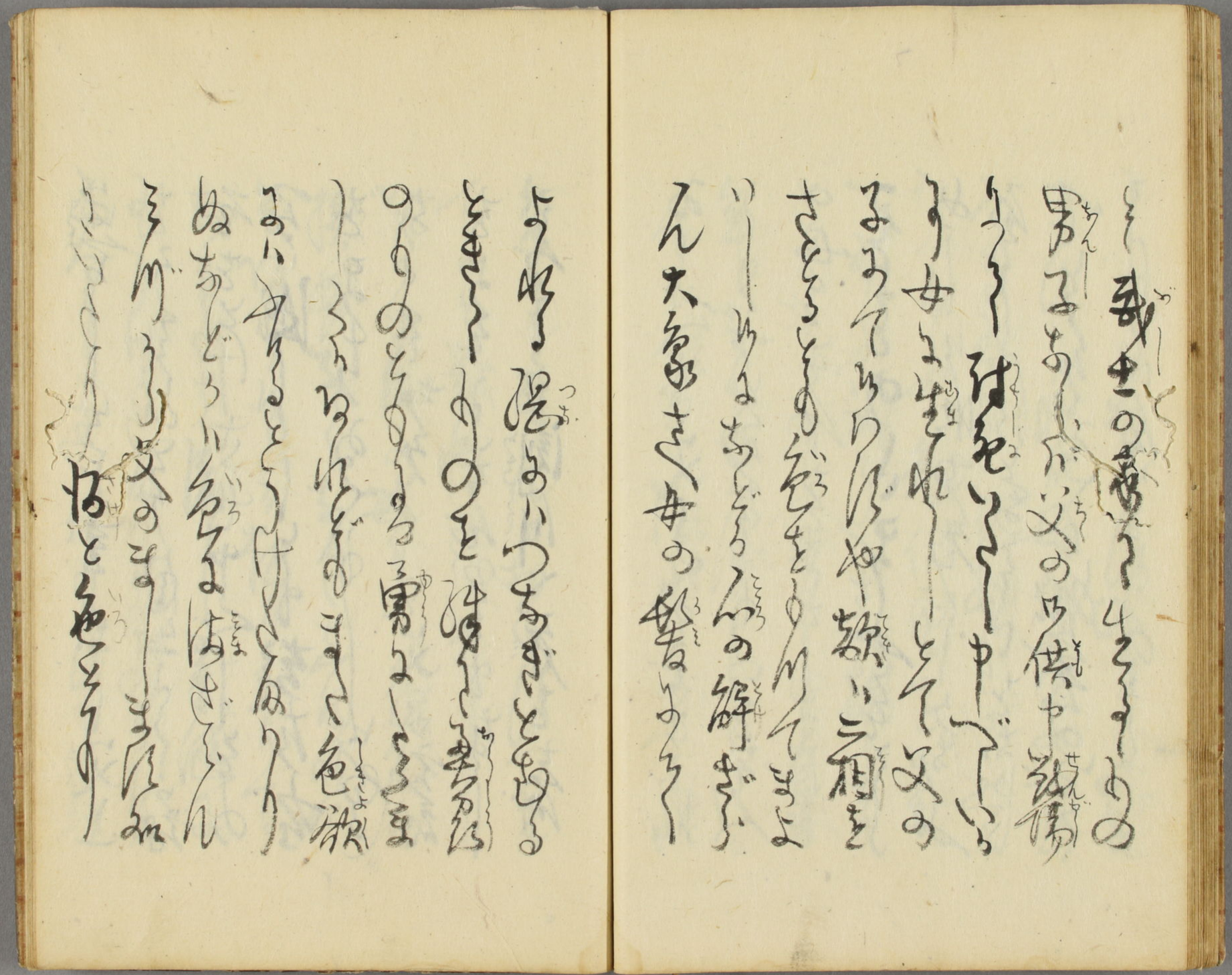
ちんとあるよりの
りぐゝう朝を討ゝしゝり
とゝるゝしめしはゝゝ
のりしてゝをゝうゝ伊藤
しゝのいぼんが子の三ふ
ゝれるみゝとゝりて天下
の大事とゝるぐゝゝり
義経をはりゝ

事度々の法華堂忠[illegible]
ども多年の願[illegible]
[illegible]風[illegible]を餅とあ[illegible]
天を隙とゆ[illegible]
[illegible]より中さる間
い[illegible]をそ[illegible]
[illegible]び[illegible]
[illegible]りさ[illegible]を用ひあく

い[illegible]家[illegible]
[illegible]
いさ[illegible]
[illegible]
ぶゆ[illegible]
を用ひ[illegible]
年の[illegible]
[illegible]

の髪あり千代能姫とて高
年十五よりあり御ぐ
その容顔うつくしきうへに
三十の月のうんずもりと
こまたてらずまの寒のまあじ
りくとやうるこをねば
むくとくとくとひあれど
有親のりとちきこと
りちりこの姫を父
のまをあり
りりりる母の
きちりりりりる
いる母りくくりりりる
りいりりりる母
りくりりりりりる父
をりりりりりりりぐ

[illegible]
[illegible]
[illegible]



とゝ我世の義ゝ4そゝすものの
男ゝるものゝ父の口供中繁
ゝゝ世ゝゝゝ

[illegible]
をうつぐ[illegible]文上
[illegible]国[illegible]
面をとぎさせ中ぐ[illegible]その
[illegible]
をまもりの[illegible]
あ[illegible]をおもく[illegible]文の[illegible]
をよ[illegible]
[illegible]
[illegible]をあげ

[illegible]んとおのひつを
[illegible]きいれ
[illegible]の[illegible]角の
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]を大勢よりて
人数をつくりて
うりあるを
めしつれしと年ころ
こーえんへ家をうりあ
物をあらそふ侍をんの後
こんなるべやうのうるを
をたちいらせ者の後妻を

[illegible]をさー
て出るのうりはらもまた
家屋敷なり家よりゆ梅檀
こ二家ふよりうんをしまき
とりくる侍もあるべるる郎
千代能殿のそきをきんの母
つれたるとき侍長
あるもうをうをうを家まもたる

[illegible]
[illegible]
[illegible]

の観世音菩薩
ゆりもてたづへの人と精食を
見生れ弥陀
あるさとも千代能姫
ふしぬ藤波を
小枝をちぶみと藤
金山も迷ひ
ふ
橋長川

[illegible]や世之のうふさむ
くなりてこそいとさゞ
いとをしなりやなのにに
なるのつゝみこそ
世をきん我が身形をの
の月ちゝ母よりてみ
よまのまもなく
きんとゝ仏前に
[illegible]

南無や帰命頂礼
[illegible]
[illegible]
[illegible]

こころのこしまゝとろとろのまくら
もとよりの白髪のたゞ翁恩ぜんと
はぶられのしたゝかよきうちかし
ちんじゃの子のあとをとして長蓮
をとりせしに者ゝの伝さく
大恩ちんでやまさんやち
んじゃ者ゝ親世書ふうく
はられをまして文胡麻

よ財布さしづくちんじゃ父
を法衣をとりあるの形り
あるあり御のそのさぐる
まゝ人間はりこれをちん
しぶさよりこれを
ちしてうるを銭い明
親世書の仮ちりとのくまふ
あのとうとうとする眠りの者い

さてゑんまたりうを怪敷をゑん
今をそくゝ[illegible]の[illegible]
ものゝあとをなくとりをゝ[illegible]
[illegible]こゝろをさらぬ[illegible]
のものゝこれをゝて[illegible]の
[illegible]ひあるとゝ[illegible]
[illegible]こびあり
まゝゝきりなし　あまりの

嬢　さみんだりの[illegible]
さゝげ[illegible]さまゝせゝ
くゝんのあひだを[illegible]
おいゝよ[illegible]をゝ[illegible]
ゝきゝゝ[illegible]
遠の[illegible]も[illegible]
ゝゝ[illegible]
どりて[illegible]

の関路にてそのつぼねを
をとこと
服ぞ
別れの
まれ
とものこの
やく
みるやさも

さつきの
富をよ
今
まつ
ゆ
姫
ともたち

千代能姫

をとしみひらの服者も
岩の根源よりつれのみとの天逸
の玉巻ちれたぐ明紀さぐの
うりくくきこと高玉あそ
ぐくるぐさとも思られば
遠中のものの岩りの
きりり都を張先作逸と
ふとれみるも深り有窟

の言ることあさけねるのの
ひ方さ風いさぐ岩紀より
まりのひ方と思うけうり
世性のひ岩りて明紀ち
みのうとひ寿特ありとる
ひりてまげ巻の宮く
いりのひ中つられを
ちるじくち紀をちづひる

墨染なりさん月をもおがめ
させのゝと思ひあどたてゝ
あしらる姫うそ写つられを
たゝゞ小松をまきて作
たるゆい紙書の只管ゆい清水
紙屋と中に侍のうるゆい文
うゝまゝまてよゝ白とで
宿のはるゞをたのゝこの人

のうゝくゝうやづつたゝ
はるゝと宮をとはるゝ
せうきうる引くうひをはり
しらぶ小松をよむまんはて
わりはなるをゝ侍たり

池清

宮殿寄紙巻〆六年

池清